九州地区高校野球県大会

九州文化　きょう決勝　長崎商

第144回九州地区高校野球県大会第10日は6日、佐世保市総合グラウンド野球場で準決勝2試合が行われ、九州文化学園と長崎商が決勝に進んだ。九州文化学園の決勝進出は他の県内主要大会を含めて初めて。

九州文化学園は佐世保実を9−6で下した。6−6の七回1死一、二塁から、後藤祐の右翼線2点三塁打と後藤逸の右犠飛で勝ち越し。投げては八回2死満塁のピンチから登板した林が1回⅓を無失点と好救援した。

長崎商は長崎日大に2−1で競り勝った。初回に石川、岸本、相川の3連打で満塁として、内野ゴロと谷口の中前適時打で2点を先行。先発一ノ瀬は5回を散発2安打に抑え、藤本、桝屋とつないで逃げ切った。

最終日は7日午後1時から、同野球場で決勝を実施する。

（石田慶介）

▽準決勝

長崎商	200	000	000	2
長崎日大	000	000	001	1

▽二塁打　山田（日）
▽試合時間　2時間19分

【評】投手層が厚い長崎商がリードを守りきった。

長崎商は初回、岸本のバスターなど1〜3番の連打で無死満塁とすると、谷口の適時打などで2点先行。その後は投手陣が金田、岸本の二遊間を軸にした安定した守備に支えられて好投した。先発一ノ瀬は緩急を生かして5回を2安打無失点。140㌔超の直球を持つ藤本への継投も効果的だった。九回は1点差にされ、なおも1死二塁と攻められたが、エース桝屋が救援して併殺で切り抜けた。

長崎日大も中尾、藤田が二回以降無失点だったが、打線が援護できなかった。

左の一ノ瀬、右の藤本好投

継投でリード守る

【準決勝、長崎商―長崎日大】5回を2安打無失点と好投した長崎商の一ノ瀬＝佐世保市総合グラウンド野球場（山下哲嗣撮影）

○…長崎商は今大会初登板した左の一ノ瀬と右の藤本が好投。エース桝屋を温存して試合をつくった2人に、西口監督は「一番の収穫。大きな自信になったはず」と合格点をつけた。

2年生の一ノ瀬は昨秋の県大会決勝以来の先発。当時は打ち込まれて1回も持たずに降板した。その後は「悔しさを力にして」冬の厳しい走り込みや筋トレに励み、心身両面で成長。この日は大きく割れるカーブを武器に凡打の山を築いた。そんな後輩の姿に「いい雰囲気で入れた」のが、今大会2本塁打と打線の中軸も担う藤本。直球で押して要所で三振を奪うなど、マウンドでも存在感を示した。

2季連続九州大会出場、そして本番の夏に向けてチームを勢いづけた2人。一ノ瀬は「今まで助けられてばかりだった。先輩の力になれるように、もっと成長する」とさらなる飛躍を誓っていた。

（藤井美和子）

長崎商２−１長崎日大

【長崎商】		打	安	点
⑨	石川	3	1	0
⑥	岸本	4	2	0
③	相川	4	1	0
⑤15	藤本	4	0	0
⑦	貫山	4	1	1
②	谷口	4	2	1
⑧	井上	4	0	0
④	金田	3	0	0
①	一ノ瀬	2	0	0
51	桝屋	1	1	0
	計	33	8	2

【長崎日大】		打	安	点
⑧	牧山	4	1	0
⑤	鈴木	4	0	0
⑨	浦川	4	1	0
②	石井	4	1	0
④	山田	3	2	1
⑥	堀川	4	0	0
③	松本	3	0	0
1	藤田	0	0	0
①	中尾	2	0	0
3	池田	1	0	0
⑦	内田	3	1	0
	計	32	6	1

	振	球	犠	盗	失	併	残
商	7	1	0	0	1	1	5
日	3	1	0	2	0	0	5

投手	回	打	安	振	球	責
一ノ瀬	5	17	2	1	1	0
藤本	3⅓	15	4	2	0	1
桝屋	⅔	1	0	0	0	0
中尾	7	25	5	5	1	2
藤田	2	9	3	2	0	0